

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の選定地区をご紹介します



交流会での石破総理との歓談の様子
(左:糸満市地域農地・水・環境保全管理協定運営委員会 右:島袋みさえ氏)



受賞団体と江藤農林水産大臣、伊東内閣府特命担当大臣の記念撮影
(左:糸満市地域農地・水・環境保全管理協定運営委員会 右:島袋みさえ氏)

内閣官房及び農林水産省は、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現に向けて、農山漁村の地域資源を活用した地域の活性化や、所得向上に取り組んでいる優良事例を「ディスカバーナ農山漁村（むら）の宝」として選定しています。今年度は、有識者懇談会において、全国応募総数496件から30地区が選定され、沖縄県内からは「糸満市地域農地・水・環境保全管理協定運営委員会」と「島袋みさえ」氏が選定されました。令和7年1月7日に官邸で開催された交流会に出席し、総理や農林水産大臣等の出席者に対して、取組内容を紹介する等、交流を深めました。

第11回
「ディスカバーナ農山漁村（むら）の宝」

糸満市地域農地・水・環境保全管理協定運営委員会
～高めよう地域協働の力～

活動当初は農地周辺や水路、土地改良施設の維持管理活動を土地改良組合員（農家）のみで行っていましたが、現在では、地域住民や企業団体、教育機関を巻き込んだ活動にまで発展しました。さらには、県内大学と連携し、地元小学校への出前講座や生き物調査などのワークショップ等の幅広い活動を展開して、次世代への農村環境教育及び地域文化の伝承にも貢献しています。



農道の草刈り作業にて、
子供達もゴミ拾い作業に参加

島袋みさえ（読谷村）
「農業は永遠の課題、人を動かす考え方、体、心、」



にんじん収穫体験の様子

地産地消の取組（情報発信）、家族や仲間とのコミュニケーションの場となる農業体験を通じて、地産の野菜（ニンジン、イモ等）の消費拡大、農業への関心向上、食育に取り組んでいます。

また、沖縄科学技術大学院大学のスタートアップ企業が開発したEFポリマーを畑に施用し、土壌の保水力・保肥力の改善に活用するなど先進的な栽培方法にも取り組んでいます。

農業生産法人有限会社大嶺ファームは、有機肥料を使用する環境保全型農業によりマンゴー生産に取り組んでいます。直売所とパーサーを併設した農園内でスイーツを飲食できるほか撮影スポットもあり、農業と観光の融合に取り組んでいます。地元農家と連携し、マンゴーの規格外品を消費者の要望に応える形で6次産業化商品として開発しています。

また、農業後継者育成のため、研修生として若者の受け入れも行っています。

沖縄版ディスカバーナ農山漁村の宝を選定!
農業生産法人有限会社大嶺ファーム（宮古島市）



受賞記念撮影

お問い合わせ先
農林水産部 農村振興課
☎ 098-866-1652